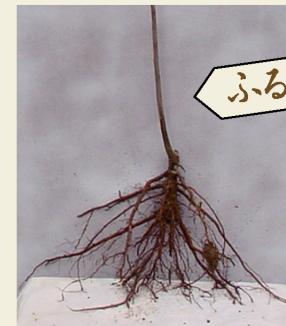


## 届いた苗木の保管について

秋の新苗は土をふるった(根っこに土がついてない)状態の苗(=ふるい苗)となります

- ◎ふるい苗:土(根鉢)のついてない苗。新苗などの幼苗期は、植えた土になじみやすく後の生育が良い。
- ◎新苗:出荷準備が整った育成したての苗。
- ◎ポット苗:ポットに入れて育苗管理し、生長させた苗。  
根がポットにより成長が制限されるので地堀苗にくらべ小ぶり。

### 用語解説



ふるい苗

秋の新苗の根っこは乾燥に長時間あうと枯れてしまいます。

苗木発送の際は充分に根を湿らせ、ワラや新聞紙などで乾燥を防いでお届けしています。

**苗木到着後は、できるだけ早く開封してください。**

## 届いた苗木の保管日数による保管の仕方

### 保管パターン

#### ■1日程度の保管

冷暗所であれば1日程度はそのままの状態で置いておいても問題はありません。  
ただ、直射日光が当たる場所に置かれると、根っこが蒸れたり乾燥したりします。  
ご注意下さい。

#### ■2日以上、一週間程度の保管

梱包を開封し、根っこが乾燥していないか確認して下さい。  
根っこをほどよく湿らせて下さい。そして、またワラでくるんでおいて頂ければ、大丈夫です。(保管は冷暗所(日陰)に)



#### ■一週間以上の場合

「仮いけ」(仮に植えておく)をして下さい。  
本植えの畑がまだ造成中であったり、何らかの事情でまだ植え場所の準備が出来ない場合は、長時間ビニールでくるんだままにしておくには無理があります。

湿らせた無農薬ワラをくるんでお届けします

## 保管についてのよくある質問

Q:どのくらいの時期まで仮に植えておけますか?

A:落葉樹は、新芽ができる少し前に根っこが動き始めます。落葉樹の場合、こちら京都亀岡でしたら3月中旬～下旬頃(地方にもります)。近年暖冬化のため少しずつその時期も早まっています。  
常緑樹の場合は、4月中旬頃まで移植可能です。

**落葉樹の場合は新芽が出るまでに植え付けましょう**



## 2ヶ月くらい鉢に仮に保管する場合

### ■鉢の大きさ

10号鉢以上(直径30cm)



### ■鉢の土

水はけのよい土(肥料分は特に必要ありません)

### ■植え付け方

根っこ部分が土の中に埋まるように根っこを広げて植え付けて下さい。  
根っこが重なり合っていますとカビたりする原因となります。

### ■置き場所

極寒地の場合は凍らない場所が望ましい。  
直射日光があたりすぎると乾燥しやすいので水やりが必要ですが、  
夏場のように毎日の水やりは必要ありません。



## 「地面」に仮に保管する場合

- ・植え付け場所は水はけのよい土が柔らかな場所へ植えましょう。
- ・根っこ間にきちんと土が入り、根っこと根っこが重なりあわないようによくほぐれた土をかぶせ、埋めましょう。
- ・水やりは、毎日ではなく、土が乾燥したら与えましょう。  
表面だけ与えても中の方までたまに水が入っていないときもありますので注意しましょう。



## ～秋の新苗～よくある質問

### Q:新苗を植え付けてから実を付けるまでの年数は?

A:実を付けるまでの年数は一概には言えないといつもお答えさせていただいている。桃栗三年、柿八年ということわざがありますように、果樹は苗を植え付けてから実を付けるまでにある程度年月がかかります。  
その土地の環境、肥料等々様々な要因により、すぐに結実することもあれば、何年を経過しても実がならない場合もあります。

肥料をたくさん施しすぎて、枝葉ばかりが茂り結実が遅れてしまうというのが一番多い例だとおもいます。

逆に、早くに実がなったので、喜んで実をつけさせていると、栄養分が実にばかり行ってしまい、肝心の枝葉が育たずいつまでたっても少ししか実がつかないということがあったりします。

### Q:それでもできるだけ早くに結実させたい場合は?

A:根っこを制限しましょう。鉢に植え付けるなどすると結実までの年数が早まります。

